

これまでの研究

平成6年～10年
主体的に活動する子どもを求めて
子どもの能力・適性に応じた支援を明らかにする

平成11年～13年
子どもの将来の生活に生きる授業を求めて
インフォームド・コンセントをふまえた保護者との連携

平成14年～21年
子どもたちの豊かな生活を求めて
指導の形態の考え方の整理、個別の指導計画の充実、保護者及び関係機関との連携の在り方を探るとともに、授業の充実

平成23年～25年
子どもたちの豊かな生活を求めて
“日常生活の指導”“生活単元学習”“作業学習”について、指導内容を設定、改善するとともに、その設定、改善の手順と条件の整理

指導の形態毎の基本的な考え方や指導内容の整理を行い、本校独自の指導内容表(HP研究の成果物参照)を作成した。また、社会の変化に合わせて、指導内容の改善を随時行った。

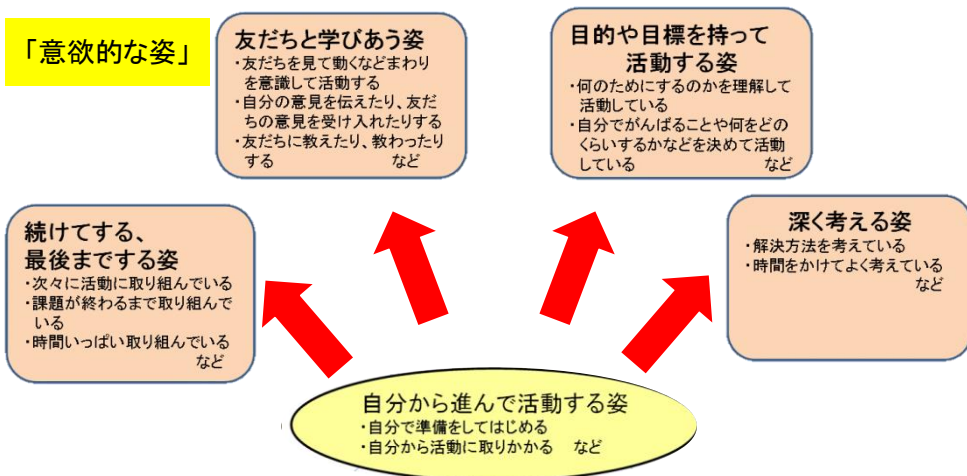


本研究では、“意欲”のキーワードのもと、授業づくりに立ち返り取り組むこととした。

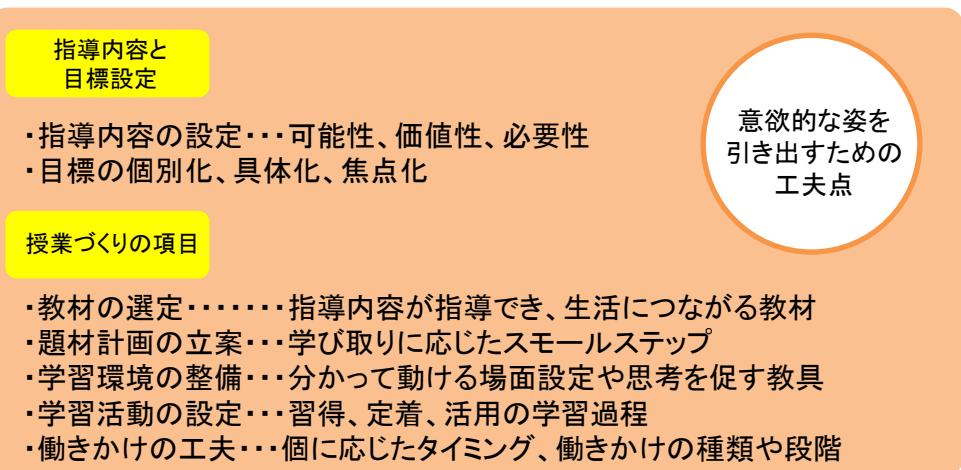
研究内容

- I 「意欲的な姿」を引き出すための工夫点の整理
- II 授業づくりのPDCAサイクルの構築
- III 授業づくりの3つのツールを活用した授業改善

取り組み I 「意欲的な姿」を引き出すための工夫点の整理

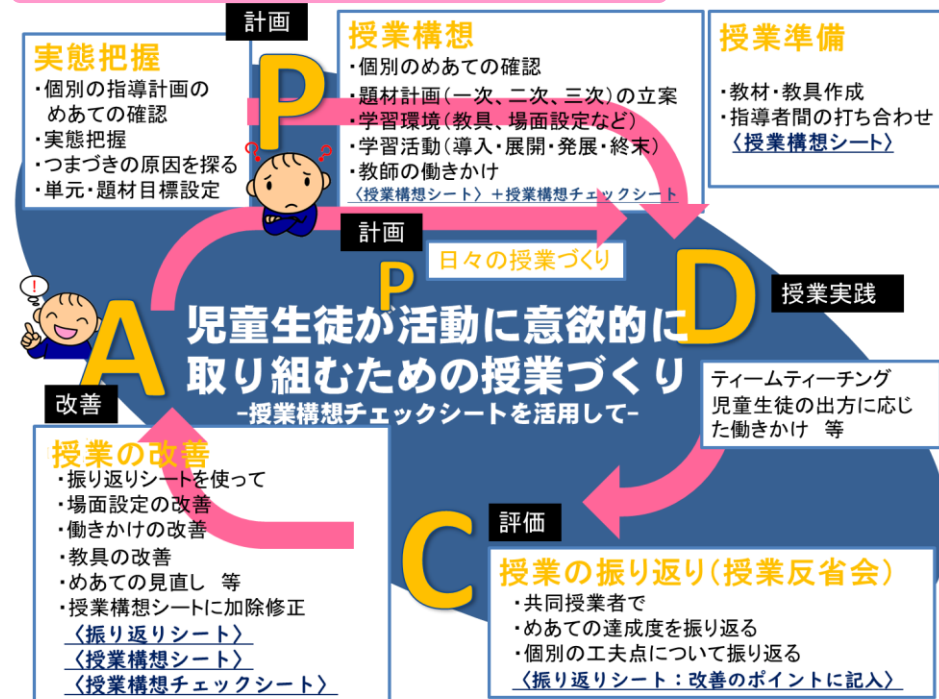


本校の「意欲的な姿」の捉え…「自分から進んで活動する姿」を基盤として、題材・単元を通して、発展的に姿が変化していく。児童生徒一人ひとり、指導の形態によって、現れる姿や過程は個別的なものであると考える。

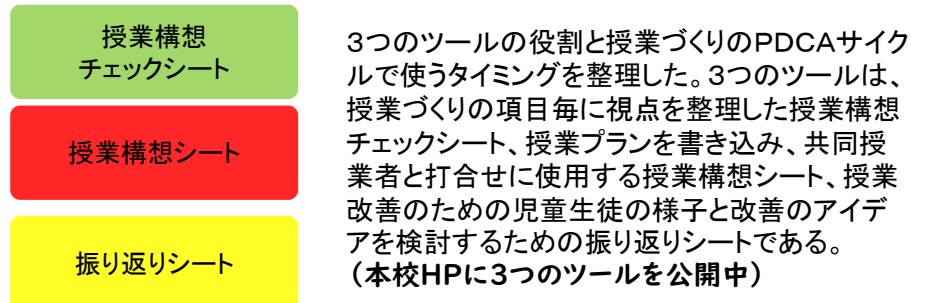


取り組み II 授業づくりのPDCAサイクルの構築

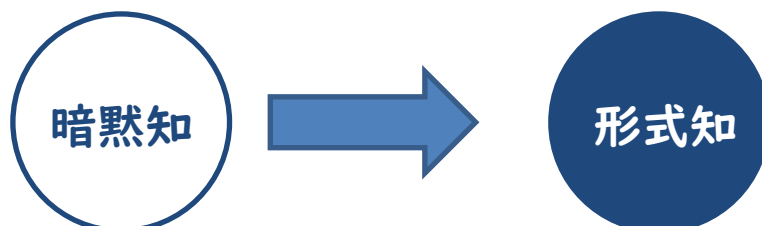
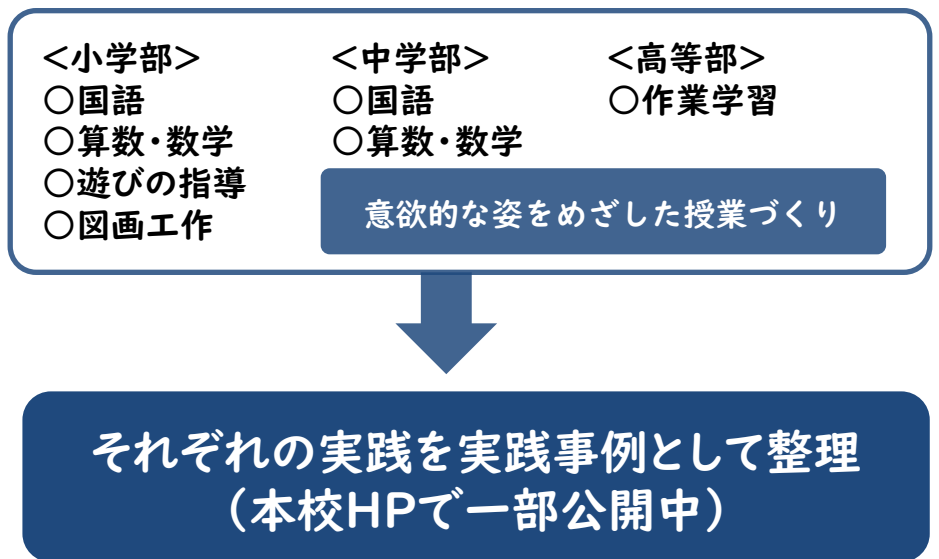
○授業づくりのPDCAサイクルイメージ図



○授業づくりの3つのツールの開発



取り組み III 授業づくりの3つのツールを活用した授業改善



これまでのベテラン教師からのノウハウ伝達中心の授業づくりから、職員集団によるアイデアを出し合う授業づくりへの転換

新たな分大附特の授業づくりの土壌の醸成